玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）地域説明会
会議録（概要）

■日時 令和7年2月5日（水）19:00～21:30

■場所 後閑小学校

■出席者 柴田市長、多田教育長、小崎次長、琵琶教育総務課長、的場学校教育課長、清山教育総務課参事

■参加者 28名

1 開会

市長あいさつ

2 説明

「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）」の内容のうち、素案からの修正点を資料に沿って説明。

3 意見交換

参加者1：この案は子どもたちのためですか。本当に子どもたちのためになるんですかね。それが一つ。もう一つは、合意して先に進めないといい教育ができない。合意があつてみんなで学校を作るという意識があつて、進めるといい学校ができると思います。この計画は市民と合意出来ているのでしょうか。合意出来ているとお考えですか。

事務局：まず、適正規模・適正配置計画のこの案は子どもたちのためになるのかという質問です。この計画、この案については、これからの社会を生き抜く今の子どもたち、これからの子どもたちが、この激動の社会を生き抜くためにつけなければいけない力というものを身につけるためにどういう環境でどういった教育を進めていくのかどうかといったところを考えた上でのこの計画です。具体的にはこれからの社会、令和のこの時代は大きな課題がたくさんあります。子どもたちが社会に出たときに、いろいろな課題に直面したときに、子どもたちが自分の力で解決し乗り越えなければいけません。そういったときにどのような力が必要なのかということを考えたときに、自分で考えて判断して行動する、そしていろいろな人と関わりながら、コミュニケーション取りながら乗り越えていく、そういった力が必要になります。学校教育で求められる力というのが、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力、そういった多様な力を育成するといったことが求められています。そういった中で、今申し上げた力というのは、多様な人との関わりの中で、自分とは違った考え方や価値観を持っている、そういった人と関わりながら、力を身につけていく。そのためには、いろいろな人と関わる機会や場、可能性や選択、そういった環境を整えて、子どもたちにこれから社会で必要になる力をしっかりと育成して行く。今の少人数、小規模学校教育も、よさがあります。ただ、これからということ考えたときに、いろいろな人と関わる中で、多様な価値観や考え方をしっかりと身につけながらいろいろな力を身につけていく、ということ考えたときに、今回のこの適正規模計画ということになってきます。

参加者1：それは何度も聞いてるんですが、本当に子どもたちのためになるんですか、そこが知りたいんです。

事務局：教育委員会としては、可能性の幅や選択を広げた環境や機会は子どもたちにとって必要だと思っています。そういう中で子どもたちが今言った力を身につけさせなければいけないと考えております。

事務局：もう一つの質問の合意形成の部分ですが、合意形成の判断基準というものはありませんが、計画というのは教育委員会の方針で、これから保護者や地域の方と具体的な協議を始めるためのスタート、そのための計画と考えております。出発点となる物、ベースとなる物は必要ですので、これを計画策定後に、個々具体的に

な計画を持って各地域に赴いて、学校再編の必要性について説明し、保護者や地域の方々と話し合いながら進めていくということにさせていただいておりますので、その中でいろいろ地域の方と話し合っこちらの思いなどもご理解いただきたいと考えております。

参加者 1 : つまり合意形成は出来ていないということですね。

事務局 : 今のこの段階では合意形成を始めるためのスタートラインと考えておりますので、これから地域や保護者の方に説明してそこからこちらの再編についての必要性についてご理解いただけたらと思っております。

参加者 1 : だから、合意形成は出来ていないとお考えですね。

事務局 : そうですね、合意形成の判断基準がどういったところかというのがありますが、そういう意味で言うと、まだ合意形成できているとは思っていません。

参加者 1 : それ教育委員会の見解ですね、わかりました。

参加者 2 : 合意形成がまだ出来ていないというお話だったと思うんですけど、この後 3 月に議会があって、そこでこの案が通って、そこからスタートになって協議をしていくということで合ってますかね。統合することで決まっています、それに向かって進むしかないような感じがして、説明をしてもらう前に決まっている感じがして、そこが納得できていなくて、まず具体的な話が決まる前に進んでいる気がするんです。今の話だと、子どもたちのためであると言われたんですけど、具体的な話、どんな未来が待っているんでしょうか。私たちの子どもにどんな未来があって、ということが予想されて、じゃあそれに向かって行きますというのを何度も聞くんですけど、その未来なんてわからないじゃないですか。いろんなことはあると思うんですけど、地域から学校がなくなって、そこに行けるはずだった子どもたちが行けなくなって、価値観とかいろいろな人と関わるとか、地域の人とでも出来ると思うし、胸上に一緒になったとしても、単学級にしかならない、少し増えるぐらいという中で勉強することより、地域にあってそこで安心安全の中で勉強している方が子どもたちも心のためだし、地域の人がたくさん入ってくれて関わることで多様な価値観って育つんじゃないかと私は思うんです。そのために地域に学校があると思います。もっと具体的な話をさせていただいてからスタートラインと言って欲しいと思っていて、以前説明会も行かせていただいて今回パブリックコメントも出したんですけど、その説明会で質問したことと同じようなことをまたパブリックコメントで書かせていただいて、そこから動けてないんです。その時の不安が解消されていないということで悶々としていて、もっと説明して欲しいという気持ちでいつもいます。今後の動きをもっと詳しく教えていただきたいです。スタートラインと言われる場所は、統合することが決まったことになるのでしょうか。

事務局 : 先ほども申し上げましたが、この計画というのが教育委員会の方針になります。議会の方にも、この方針で行きますということは最終的には 3 月の議会のときには、パブリックコメントも踏まえた上でご報告させていただき、最終的には教育委員会の方の議決を持ってこの方針ができあがるということになります。この計画策定のところがスタートラインになります。市議会の議案としてだすものではありませんので、議会に通る通らないというよりも、教育委員会の方針として教育委員会の会議でもって議決するものです。その議決を持って計画が策定するということになりますので、そこがスタートラインになります。この計画というのは教育委員会の方針ですので、教育委員会が決定します。

事務局 : 教育委員会の方針ということになるのですが、その後、まだまだ説明不足であり、不安もまだまだあると思います。1 年、期間をとらせていただいておりますので、各地域に行かせていただいて、より具体的な話の中でお話をさせていただきたいと考えております。まだ足りないということは我々も感じておりますので、そういった意味でまず方針の方を出させていただきたい。その上で具体的な各地域ごとに状況も違うと思いますので、しっかり話をさせていただきながら調整の方をさせていただきたいと思ひますし、意見交換もしていきたいと思ひていま

す。まだまだ合意形成も出来ていませんので、しっかりと我々の思いを伝えていながらお互いに話し合いながら進めていきたいと考えております。

参加者2：今3年に延びているんですけど、スタートラインがあって、そこから協議をして説明をしていただいて、3年ではだめだ、もっと説明しないととなったらこの先延びる可能性がありますか。

事務局：先ほども合意形成の話がありましたが、合意形成をどういうふうに見るかというところもあるとは思いますが、おおむねご理解をいただけたと感じたら次の段階に進めると考えています。みなさんが全然ご理解いただけていない状況で準備委員会を立ち上げるというのはなかなか難しいことだと思っておりますので、おおむねのみなさんのご理解がいただけたという段階で準備委員会が立ち上げられると考えております。

参加者3：今の方の返事は、白紙に戻るかどうかということだと思うんですが、延期も含め、進めますと市教委の方はおっしゃるんですが、統廃合はやめるということ、協議というのはそういうことですよね。協議をするということは、地域や保護者が、統廃合は辞めて欲しいと保護者が言ったらもう白紙に戻しますといった考えがあるかということを知りたいのではないかと思います。それから、統廃合はよかれと思ってくださるんだと思いますが、子どもにとってはものすごいストレスを与えるものであるということ、これは他の自治体の統廃合の記録を調べると、ものすごい傷を子どもたちに残すことになります。ですから統廃合は基本しない方がいい。ですが、どうしても避けられない場合はものすごいケアが必要になります。そこところは覚悟を持って進められているのでしょうかということをお聞きしたい。それから、地域別に意見交換会をして協議をしますということをおっしゃっていたと思います。それはいつごろ、たとえば山田中学校区で1回とかではなく、納得がいかなければ2回でも3回でも、納得がいくまでしてくださるのかということ、いつ頃どのような形で計画をされているのか、お聞きしたいと思います。

事務局：まだ計画が策定できてない段階で、いつどのくらいどのようになっているかは具体的にまだ決めていませんが、予定通り3月に計画が出来たとしたら4月以降に順次、地域の方保護者の方と日程の調整をさせていただきながら進めていくようにはなると思います。今のように広い地域の範囲でさせていただくと、それぞれの地域ごとの状況が異なりますので、もう少し小さな単位でさせていただくことになると今のところは考えております。

事務局：やはり繰り返し説明に行く必要があると考えております。1回とかでは話にならないと思いますので、ある程度、今は中学校区という大きな単位でやっておりますので、そうではなくて、小さい単位でしっかり話が出る状態で説明をさせていただきますし、意見交換をさせていただきたいと思っています。

参加者3：白紙に戻すということもあるのかということをお教えください。

事務局：教育委員会としては、令和3年からやってまして、検討委員会の答申を含めやっておりますので、まず我々としては必要性があるということで考えているので、まずは我々の思いをしっかりと伝えさせてもらうということになりますので、現段階で白紙に戻すことは考えておりません。

事務局：子どもたちへのケアということですが、この統廃合が子どもたちにとって大きな環境の変化の中学校生活を送るということで、子どもたちの不安やストレスも大きいと思っております。ただそういうふうにならないようまず、統合前にはしっかり事前に交流活動をしっかり進めて、一緒に今後過ごすであろう友達としっかり関係を築く。さらには教育課程や行事等も出来るだけそろえた形で、一緒になったときに子どもたちが戸惑ったり不安にならないように、しっかりその辺りは取り組んでいきたいと思っております。当然統合後もしっかりと子どもたちのケアということを大切に進めていきたいと思っております。

参加者3：たとえば鉾立小学校の先生が胸上小学校に少なくとも一人は子どもたちについて行くとか、考えていただきたいと思っております。

参加者4：山田小学校で保護者の方にアンケートをとって陳情書を出させていただきました。陳情書を書かないで欲

しいという人は一人もいませんでした。地域からも陳情書を出しています。山田小学校も地域も反対しています。合意出来ていないので統廃合は進められない、協議をしながら計画を進めていきますとあるので、私たちが反対、合意形成できないと言い続けたら統廃合はされないという認識を持っていますがいいのでしょうか。

事務局：先ほども申し上げたのですが、おおむねの方の理解を得られていないと次の段階に進めないと考えております。つまり準備委員会というの設置できないかと考えておりますので、まずは学校再編の必要性というのをこちらはしっかりと説明しますし、どいった部分でご不安を感じられているのかとか、保護者の方がどういう思いをもたれているのか、地域の方がどういうふうと考えられているのかということも、こちらは次年度以降、地域の方や保護者の方にも説明に伺った際にお聞かせいただきながら、お互いの考えをすりあわせていくというようなところで、合意形成の方がはかれるようにこちらも努力をしていきたいと思っています。

参加者4：はかれない場合は合意形成しないと断言していいですか。

事務局：その次の段階に進めないので、おおむねの方が合意していないということで反対ということが明確になっているのであればそういうことになると思います。

参加者5：修正案にはおおむね満足している部分が多かったのであまり言わないでおこうと思っていたのですが、八浜中学校区の説明会を10/7に行ってくださいと思うのですが、その時に紛糾して、まだ知らない方がいらっしゃるからもっと説明会を開いて欲しいと我々PTAがお願いをしたと思うのですが、その時に教育委員会の方が何とおっしゃったかという、これ以上説明することはない、あるとき説明したからと、行く時間も無いし人もいない。で、我々PTAとして時間も作って場所も提供するから来て欲しいと言ったが断られました。それを修正案を出したときに、今まで言っていなかったスタートラインと位置づけてという言葉載せて、協議させてください、地域に説明に行きますからと、虫が良すぎませんか。我々がどんな思いでたくさん説明会を開いたのか。どれだけPTAの方、地域の方、すごい苦労したのか。もう一つ言わせていただくと、本当にわかってないなと思うのが、総意として陳情書を出したんです。そこになんて書いていましたか。大崎小学校と八浜小学校の統廃合の中止、荘内中学校と八浜中学校の統廃合の中止。保護者や地域から統廃合の声が出たときに、統廃合をしてくださいと。我々ははっきり書きました。それが八浜中学校区の総意です。なのでここまで踏み込んで言うべきでは無いかもしれませんが我々中学校区、八浜中学校、大崎小学校、八浜小学校は、まず協議に応じるつもりはありません。なぜなら陳情書を提出したからです。陳情書を11月に提出して、じゃあ大崎小の合併は何年だから協議しましょう、そんなことありえません。我々がどういう思いで、陳情書を出すために、総意をとるために、動いてきたかというのは教育委員会の方も知っていると思います。僕が陳情書を提出したときに、教育長に、なぜ小規模の教育が良いとされているのに、大きい規模にするんですかと聞いたときにこう言われました。「それってインターネットで調べてるでしょ。」インターネットで調べていることがいけないのですか。今こうやってタブレット端末を子どもたちに与えて、インターネットで出てきた答えが間違っているのですか。たくさんある答えの中から見つけたものから正しいものを導くことが大切なんじゃないですか。調べていただきたいんですけど、内閣府のホームページで少人数教育の効果（東京都）というのを検索したら出てくると思うのですが、その中でたくさんの項目で少人数教育、その方がいいという回答が出てます。それは加配で、ある小学校に先生を一人投入して、一学年何クラスかあるものを全部半分に分けたんです。先生を増やして。そうすることで、学校活動における話し合いの状況が改善、担任の指示にしたがって行動出来るようになった。清掃の取り組み状況の改善、いじめの発生が減少、チャイム時に生徒の離着席の割合が減少、給食準備・片付けの状況が改善、運動会等の体育行事への取り組み状況が改善、授業中の学習態度が改善、学習に対する意欲のない生徒の割合が減少、給食を残す量が減少、基本的な生活習慣が定着、生徒が集まる際に短時間

で静かに話を聞ける、保護者会への出席が増加、生徒指導上の問題行動が減少、授業中の私語が減少、規律正しい集団行動の状況が改善、校外における生徒間の暴力行為が減少、病気以外で保健室に来る生徒が減少、保健室等に登校する生徒の割合が減少、基礎基本の学力が定着、ボランティア活動などの奉仕的活動の参加、家庭学習の取り組み状況の改善、ほぼ全て 25%改善されています。これは東京都が行っているんですよ。おかしくないですか。それなのに確かに大きい人数にするメリットはあるとは思いますが。そういう文献もインターネットに出たのはもちろん見たんですけど、これだけ身近な日本の東京都でこの結果が出ているのに、それを全然聞いてくれないじゃないですか。我々教育委員会はこちらがいいからこうだ、そんなの全然平行線だと思うんですよ。平行線になったものを交わるようにするんだったら、子どもの未来のとか今の子どもを大切にしてくれているって、教育委員会が我々の子どもたちも大切にしてくれてるって感じないと、絶対交わらないですし、僕は正直玉野市の教育委員会に預けたくない、そう思います。少し感情的になったんですけど、やっぱり我々がどう思うかで陳情書を提出したか、山田小の保護者の方々、後閑小の方々、それがほんとにわかっていないと思ったので少し言わせていただきました。

参加者 6 : 今話を聞いていて、地域や保護者との合意形成がとっても大事だなと思います。2015 年の文科省が出した手引きを元に教育委員会はこの計画を出しているんだと思います。公立小学校中学校適正規模・適正配置計画等に関する手引きです。その手引き読んでみましたが、このような文言があります。「今まで学校規模を重視するあまり、無理な学校統合も見られた。」全国にあるんです。平成の大合併なんかもありました。その前からもあります。地域住民の理解と協力を得て行うように努めることが大切で、小規模校の利点を踏まえ、総合的に判断した場合、存続することが好ましい場合もあるというふうに言われています。だからものすごく大事なことを指摘されてると思いました。はじめに質問された方と関係するかもしれませんが、この統廃合の適正規模の狙いというか、それはスタートがこういうことだったですよ。中長期的に玉野市の教育の質の向上を考えると。そういうふうに言われてましたよね。教育の質の向上。で、それは説明会の時に言われたんですが、ならば今現状、玉野の教育の、いろいろあると思うんですけど、こういう質が、問題はこうだ。それで統廃合をすることによってこれだけ質が向上するんだということを明解に答えてほしいんですよ。そして、統廃合しました、その後この統廃合が成功だったのかどうなのかということを検証する必要があると思うんですよ。それが、いつ、だれが、どのような方法で検証していくのか、そういったことについてきちんと考えを持って進めようとしているのかというのが疑問になりましたのでお答えして欲しいと思います。玉野の今の現状に問題点があるからこそ一歩踏み出して統廃合、適正規模にしようとしているわけでしょう。そこをもうちょっとわかるように説明していかないと、未来はこうなっていくのかとなかなか思えないんですよ。先ほど学校教育課長のほうから説明があったけど、いわゆるアクティブラーニングに関する文言ばかりなんで、玉野市の実情を踏まえてそこらへんの説明が出来ないと、みんなピンと来ないんじゃないかと思いました。

事務局 : 質の向上というところで話をさせていただきます。質の向上の一つとしては、人間力の向上ということは先ほどざっくりとおおまかな話をさせていただきました。具体的な話をいくつかさせていただきます。まず質の向上のなかで、学校教育の中の学力向上が本市の大きな課題の一つにあります。授業力、学力向上というところで言いますと、現在学校の授業というのが大きく変わっております。今の学校教育の中の授業というのは、個別最適な学び、一人一人を大切にしていって個々に応じた学び、それと合わせて子ども同士がそれぞれの考えを伝え合いながら学び合う協働的な学び、という二つの学びを学校では重要視して進めています。本市の学校規模、少人数の学校が非常に多いなか、後者の協働的な学び、いろいろな友達同士で自分の考えや思いを伝え合ったり、考えを発表し合ったり、そういった学びというのが難しい、学校・学年・学級というのがあります。

そういった中で協働的な学びの必要性というのは、判断力・思考力・表現力そういったものにつながっていきます。そういったところで協働的な学び、いろいろな考え方を学んでいく、その中で自分の考え方をさらに広げていく。学びを深め、そういったところをしっかりと進めていかなければいけない。今の状況で言うとそれが難しいということです。さらに教育の質の向上の部分で言いますと、学校の組織体制、学校教育の環境といったところで支援・指導の組織体制というところが大きく関係してきます。本市、小学校中学校それぞれ1学年単学級が多い学校があります。そういう中で教職員の定数が限られていて、1学年1クラスの担任だったらなかなか他の職員と相談してということが難しい。教職員の質の向上というところで本市の課題というところでもあります。統廃合によって全学校が全学年複数学級になるわけではありませんが、統廃合することで1学年でも1クラスでも増えることによって、教職員の数が増える。そうなると学校の組織体制の充実を図れることにつながっていくことです。子ども、学校の組織体制方面での質の向上を図るための適正規模・適正配置という計画になります。

参加者6：要するに、子どもたちも教職員も、人数が多ければ質が上がるということですか。

事務局：多ければいいというわけではないのですが、多いことでいろいろな教育活動や学習活動が深まり広がるという可能性が出てくると。その体制を整えた上で中身、教育を進めていくということになります。

参加者6：多様な考えに接するというのは非常に大事だと思うのですが、同学年の子がちょっと増えたくらいではそんなに変わらないです。アクティブラーニングのとかちょっと読んでみると、授業の中で保護者とか地域の人の声とか、先哲の声、書籍とか様々ないろいろな方法、多様な考えを受ける方法もいろいろあると思うんです。ただ単にその空間にいるからじゃないと思うんですよ。だから無理矢理にその空間にいなければいけないと、その必然性がよくわかりません。

事務局：空間ということで、確かに多様な他者との関わり方は工夫すればいろいろ方法はあります。実際に現在学校でもたとえば端末を使って遠隔で他校の同じ学年の子たちと交流したりということも行っています。ですが日々の生活の中での学びあいであたり様々な経験、それは子どもたちにとって大きいということですよ。さらに、あまり人数に差は無いかもしれないけれど、一人でも二人でも増えるということとこの部分と、現時点ではそれが成り立っていても、今後減っていくという状況を踏まえての計画ということになっています。

参加者6：検証はするんですか。統廃合がなされました、その後確かに玉野の教育の質は向上したと、何らかの方法で検証されますか。

事務局：いろいろな面でこの統廃合について各学校の状況といったところはしっかり分析し、検証し、今後につなげていく必要があると考えています。そのように進めていく必要はあると考えています。

参加者7：12月議会で議員がいろいろ質問したりしていたときの教育長の答弁、「小規模校のメリットは理解しており、少人数の教育の良さを否定はしない。多様な他者と関わる中で新しい時代を生き抜くために必要な思考力・判断力等の質、能力を育成するためある程度の集団、規模が必要であると考えています。」という判を押すような答弁を何回も聞きました。じゃあ荘内小学校、田井小学校はたくさんの子どもがおります。よっぽどすごい教育が出来て、精度が上がっているのでしょうか。そこを目指そうとしているのでしょうか。新しい時代を生き抜くための教育を今から始めるのですか。もうずいぶん前からしているでしょう。それで荘内小と田井小はよっぽど先進的な精度があがって、だから今小さいところもそうしなければならぬと。そういうふうな理屈になるんですね。よっぽどすばらしい教育ができていますね。ということが一点。3kmが2kmになりました。スクールバス。検討委員会が出した答申でははなから2kmだったはずですよ。それをわざわざ素案で3kmに伸ばしました。それを修正したと言いますが修正なんですか。3kmになった理由がわかりません。聞いたら、体力をつけないとい

けないというのが理由だったみたいでした。もう一点、パブリックコメントで教育委員会へ紙で出しに行きました。どこに出せばいいのかよくわからないので、中に入ったら、外に箱がありますのでそこに出してくださいと言われたので外に出ました。箱がありました。外に出たらなんとコピー用紙の箱の上に穴を開けて紙が貼ってありました。ここにしてくださいと。はためにもこれがパブリックコメントを入れる箱には見えません。パブリックコメントって、あんな扱いされるのかとびっくりしました。

参加者 8： 荘内や田井は学力がいいのか聞きたいです。

事務局： 現在の本市の学校の状況ということで、大規模校、中規模校、1 学年複数学級ある学校については、しっかりとそれだけの教員がいることを生かして、校内研修であったり、公開授業等の取り組みを進めています。その中で結果についてはそれぞれです。ただ、取り組みとしては、学校の中で学力向上の取り組みに向けた組織体制を校内で整えて進めています。学力向上だけではなく、不登校対策についてもしっかりと支援体制、学級が多いと言うことは職員の数がそれだけ多いので、そういった体制を整えているという状況です。取り組みとしては最大限しっかりと先進的な取り組みを進めている状況です。学力テストの結果ということは、各学年、各学級によっていろいろです。よく言われるのが、小規模だからいいのか、大規模だからいいのかというふうに分かれますが、正直学力テストの結果というのは学校の規模で一律に大きいから小さいからこうですという結果にはなっておりません。大規模でもいい学年があったり、小規模でもいい学年、良くない学年があったりと、それは規模にかかわらずということなんです。学力向上も本市の大きな課題ですので、しっかりそれも取り組んでいます。ただ子どもたちの学力、力というのは学力学習状況調査というのやテストの結果や数値だけではかれるものではなく、いろいろな力が必要になります。なかなか数値、テストの点だけでは見られないものもありますので、ここで大規模だから結果がいいですとか、そういうお答えにはなりません。ただ、そういった力を身につけるための取り組みを進めているし、そういった方法や取り組み方というのが非常に幅広く可能性があるということになります。

参加者 9： 昨日と今日のみなさまのご意見やご質問を聞いていて、私もなるほどなところがありまして、この統廃合計画が 3 月に計画策定と聞いて、この策定という言葉を知るとどうしてもこの計画で決定して統廃合に納得していない方からすれば、統廃合するための話し合いしか出来ないのかという不安があるのだと私自身思っています。そこで教育委員会の方にご質問なのですが、まず計画を策定しないと各地域に出向いて統廃合の必要性を、我々に納得いくような説明が、策定をしてからでないと具体的な説明が出来ないのかなというところをお伺いしたい。今統廃合修正案の段階で、策定は皆様の合意が得た状態で策定して、準備委員会を設定して、という順序に変えられないのかということと、昨日の説明会で、第二日比小の保護者の方がおっしゃっていた、第二日比小学校は人数が少なくて教育になっていないというようなご意見がありました。その保護者の方は統廃合を待ち望んでいるとおっしゃっていて、そういう方のご意見も納得しますし、やはり大崎・八浜、私は大崎小の P T A です。第二日比小学校と大崎小学校では考え方が違いますし、それは当たり前のことだと思っていて、二つ目の質問といたしましては、今は玉野市の小学校をひとつくりにしているのですが、それは玉野市立の小学校が全体的に人口が減ってきているから、10 年前から本当はしとけば良かったんだけどということは重々承知ではあるのですが、やっぱり各地域によって違いますので、玉野市立小中学校ではなくて、たとえば、玉小・玉原小・日比小・第二日比小の統廃合計画、みたいな感じで、私たちが言うと、大崎小・八浜小の統廃合計画みたいな感じの各地域の計画にはできないのでしょうか。この 2 点を伺いたいと思います。

事務局： 計画につきましては検討委員会を踏まえて 1 年半かけて全体的な話をさせていただいております。もっと早

くしておけば良かったという話も確かにあろうと思いますが、やはり一番は年間 218 人くらいしか玉野市に子どもが生まれていないというなかで、それこそ荘内は 70 人、田井が 40 人というところで、それ以外の地域で 100 人くらいを 12 校で割るみたいな状況になっていて、すぐ子どもの数が減っている状況が見えてきています。統廃合の話が出ていますが、たとえば今回の形で再編したとしても、なかなか荘内や田井のような大規模や中規模にはならず小規模校なんですよね。そういうところが多いので、もちろん小規模校の良さもわかっていますし、そこは活かして行く必要があると思っています。計画の方は、教育委員会としてはこれまで話し合いをしてきた中での一つの成果というか、教育委員会の方針ということでこれまで話合った結果を踏まえて出させていきたいというのがあります。その上で、第二日比小学校、大崎小学校、それぞれの学校で状況は違うと思います。感情も違ふし、賛成反対の声の大きさも違うと思うので、それぞれの地域に入って行って、具体的な内容を持って話をさせてもらいながら、こちらの思いなども伝えながら、話を進めていきたい。去年の地域説明会で回らせてもらった中で一番思ったのは、計画＝ゴール地点と思われる方が多かったのかなと思ったので、そうではなくて、こういった計画を進める上では地域の方、保護者の方、しっかり話をしながら進めていく必要があると思っています。なかなか何もなしで話をしようとすると、ふわっとした話しかできないと思っていました。計画策定した後に具体的な内容をもって、それぞれの地域の方々と、我々はどう考えていますと、地域ごとに状況は違うと思うので、その辺りはしっかりと個別に話をしていきたいというところでこの計画を出させてもらっています。

参加者 9：今の答弁の結果で、私の中では（案）もしっかりした案だと思ったので、だけれども教育委員会としては、案だとふわっとしているからそもそも協議にならないというお考えだと理解していいでしょうか。

事務局：そうですね。実際各地回らせていただいて、計画＝ゴールみたいな感じでこの先の未来を思われています。具体的にバスを走らせて朝何便、夜何便とか言われてたと思うんですよね。避難所がどうなるかとか、具体的な話をされたんですけども、計画が出来る前の段階なので、廃校後の話も決まっている状況というのはおかしいと思うので、我々としての方針を固めたうえで、具体的にこの地区はこの形、というのを出させてもらいながらご理解をいただけるような話し合いというのが必要ではないかと。今の段階ではそういったものが見せられないので、そういったような形で進めた方がいいのではないかと考えています。

参加者 9：すごくよくわかりました。バスだったり避難所、空き校舎をどうするかというのはやはり計画後でないと玉野市側としてはお話できないというのはわかったのですが、大規模だったり中規模だったり子どもたちにとっていいんだよってというのが納得できない保護者の方々が、統廃合後の話ではなく、そもそも統廃合するかしないかの段階までが案という考えにはならない感じですか。通学路だったりバスだったりを考えるのは統廃合計画になってからというのはわかるのですが、そもそも統廃合をする、生徒が増えるということが不安視をしている保護者というのは具体的な話ではなくて、そもそも小規模校として大崎小を残して欲しいと思っている保護者にとって、この計画が策定してしまうことが不安だと思うんですけど、統廃合後の話ではなくてその前段階の、大規模がいいか小規模がいいかの協議を案の段階でもう少ししていただくことは可能なかどうかと思いました。できないのかなという質問です。

事務局：この計画自体は大規模校にしようということではなくて、昨年 200 人程度しか玉野市で生まれていないという状況で、どんどん減ってきています。もちろん子育て支援政策をしっかりと、増やしていく必要があると思うのですが、現状見るとそういう状況になっているなかで、複式学級が市内の小中学校で増えています。この 20 年間で 14 校のうち 9 校がなっているという状況です。そうならないようにしていく必要があるとは思いますが、現実としてなっている状況の中で、ある程度の、小規模よりも極小になってしまうので、配置の部分

もあると思うのですが、組み合わせの中でさせてもらおうと。それでも大規模や中規模にはならないのですが、おそらく今の小規模校くらいの形が先々もある程度できるのではないかと考えてもらっている。大規模や中規模の良さもあると思いますが、現実そういった規模にはならないです。

参加者 9 : きっと後閑小なんかは、わざわざ極小規模校が、それこそ陳情書を出させてもらいに伺った時に、ここは学校に行けなくなった子どもたちの最後の砦なんだという後閑小 P T A 会長さんの言葉がずっと心に残っておりまして、統廃合を本当に必要としている地域もあるのですが、そうじゃない方々もいらっちゃって、とにかく計画にならないと具体的な話し合いはできないんだってことを今日は教えていただいたということで大崎小学校の保護者の方には伝えておきます。そしてこれが計画策定したからといって決定ではなくあくまでスタートラインなんだということを知りやすく保護者の方に伝えて、よりよい環境で協議が出来る関係作りをさせていただけたらと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

参加者 1 : 私は合意形成が出来ていないのなら次の段階に進むべきではないと思います。なぜならば銚立こども園がつぶされるときに、保護者も地域も大反対したんです。こういう説明会があって、大反対しました。つぶして欲しくないんだ、この園がいいんだ、という答えが返ってきたかという、幼保一体化計画に基づいてこれをやるんだからご理解くださいという説明でした。この計画に基づいて進めるんだから、反対している気持ちはよくわかるけどもご理解くださいと言われて、時間だから終わると言って統廃合されました。そういうことはないですよね。だから、次の段階に進んで欲しくないです。進んだらそれと同じことになるかなとすごく懸念しています。銚立こども園がつぶされ、銚立小学校がつぶされ、玉野市の教育がつぶれたらどうなるかなど懸念しているものです。

事務局 : 先ほども言いましたが、計画を方針という形でやりますけど、それが出来たとしてもスタートラインという話の中で、個別に地域に入って行って、意見を伺いながらやっていきたいと思っています。その先に、再編準備委員会があります。実際に新しい学校を作ろうとしたら 2 ~ 3 年くらい前に再編準備委員会を立ち上げる必要があるんですが、いろいろなことを決めないといけないので、その中には地域の方や保護者の方、いろいろな方にご協力いただかないと、実際難しいと思っております。その前段階でしっかりと話をしながら、我々の思いも伝えながら、地域の思いも聞きながらどうするべきなのかということ話をしていく必要があるんで、行政だけで出来る話ではないと思っています。

参加者 1 : 白紙に戻したくないのはわかります。次の段階に行ってもほしくないけど仮に行ったときに、白紙に戻す可能性もあるということはこの時点で約束できますよね。したくないのはわかるんですけど、ここまで何年も苦労して夜遅くまでやってきたのもわかるんですけど、でも、地域住民や保護者が、これはいかん、こうしてほしい、統廃合はだめなんだということになったら白紙にもどる可能性もあると認識したんですけど、そうですね。質問です。ご理解くださいということでごり押しされませんか。

事務局 : 白紙に戻すということは考えておりません。いろいろ意見が合わない、合意ができないということで期間的に延びるということはあるかもしれませんが、我々としては今回この計画を作らせてもらってそれが一つの目標になりますから、ご協力いただいて地域のかたとしっかりお話をし、合意が得られたら準備委員会を立ち上げるという段階をやっていくというふうに考えています。

参加者 1 : 市民が反対してもですか。

事務局 : 合意形成が得られたら準備委員会を立ち上げるという状況です。

参加者 1 : 合意形成がはかれなくてもですか。

事務局 : できるように我々は努力してまいります。

参加者 1 : でも、白紙に戻る可能性もありますよね、努力してもできない場合もあるじゃないですか。心理も論理もあ

ったりする。可能性はありますよね。もう一つ、鉾立こども園がなくなってサンマリンこども園になって、よくなったかという検証はされてないですよ。良くなったんですか。

事務局：今サンマリンに通っている保護者の皆様から、教育側の苦情が出たりとかそんなことはないですし、駐車場も広くて送迎しているところを見ていると非常に喜ばれていると思います。卒園式とかも行きますが、大変いい子が卒園していきますので。

参加者 1：ぜひ統廃合後も検証して下さい。鉾立こども園は荒れたままになっていますよ。荒れ放題です。

参加者 10：玉野市は学校がたくさんあって、昭和の大合併もなく、ずっと維持してきたところですよ。将来的には検討の余地はあるかと思いますが、石島の分校さえ最後の一人まで見ました。奥玉小はなくなりました。それで学校ができていく経緯からすると、玉原にニュータウンができて玉原小学校を作り、シーサイド団地ができて第二日比小を作り、よその市町村の学校がどうかという、統廃合をしていない学校というのはその都度そこに学校を作っていないです。だから遠くてもそこに通っている状態で、1校でその地区を全部やっているというような関係で、玉野は誇れる教育だと思います。これは生かすべきこともあるし、将来的には今までの説明会では将来お金がかかるとか、子供のためにということを言われていますが、これを玉野では学校をなくすのだと、無理矢理に引っ付ける、1学校 2クラス以上とかいろいろな説明を受けてきたけど、実際この案ではそうはなっていない。答申からもいろいろ変更できるんですから、今までのみなさんが意見を出したこととか、最初のころから全部読んでください。それによって玉野市として答申以外にも変えてきてるので、その方針を出していただいたいと思います。それはこういった案をみなさんから聞いた話では、玉野市ではどうなっているのか、そんなにお金がいるのかと。前の市長も、今後お金がいるから学校にはお金はかけられないということで何もできずに、それがずっと続いている。だからお金がかかるのでしたら新庁舎もいららないと思います。今からでも変更はできると思います。そういったことを新聞報道することにより玉野の評価はずっと下がってくると思います。それから、学校をつぶさないといけないのかとなっていると思います。統廃合はできる場所はあると思います。そういう方面をして、大々的なことを公表するべきではないと思います。当然人がいなくなればしないといけないのですから、それでもやっていくというような玉野の教育にしてもらいたいと思います。それから、学力テストの結果も出ていると思いますが、10市で最下位でしたが今はどうなっているのでしょうか。そういったことで案を作るのはいいと思いますが、もうちょっとよく考えて、教育云々ではなくて地域、学校は教育委員会のものではありませんよ。市民のものでしたらね。そんな勝手に自由にされたのでは困ります。その辺をよく考えて、玉野市の人口を減らすからこうするのではなくて増やすためにどうするかということを考えていただきたいと思います。

参加者 11：教員をしていたものです。あまりにも答えになってなくて、それにあまりにも以前質問をした方と同じ返答が返ってくるだけでなら教育の質の向上について修正も向上もなく全然考えてないのに思考力を伸ばすというので唾然として声を上げてしまいました。たくさん言いたいことや質問はあるのですが、子どもが輝く、一人一人が生きて、という力が必要だと思います。子どものための教育の質を上げるとか、子どものためと言われていますが、岡山県も玉野市も子ども真ん中の推進の取り組みをしていますが、そういうご時世ではあるとは思いますが、先ほどの答弁が、同じクラスの子どもが増えればそれで経論的な話ができて学びができ質が上がると短絡的な回答で、それについては私たちが培ってきたものがあるので、少し異論を唱えさせていただきます。私は大規模も中規模も小規模も行きました。小規模校でも子どもたち一人一人をこぼすことなく輝かせる、輝かせるための校内研修も公開授業ももちろんしています。学年が違ったりと互いに切磋琢磨しあっています。その辺はばかにしないでほしいです。そして協働的な学びですが、伝え合うというのは人数が多ければ質が上がるわけではありません。この場の話でもわかると思いますが、これだけ大勢の前で意見をいうのはとても勇気がいらいます。

話し合いになりません。今話し合いの場ではないのかもしれませんが、私たちはずっと子どもたちを教えながら、伝え合うためには、みんなが意見を言うためには、3人4人、もしくは2人の小規模で話し合っただけを全体のものにしていくというやり方をしてきました。それはもうみなさんわかると思うんですけど、これが2〜3人の場だったらみなさんもっと意見を言い、意見が高まって、大きな力になりますよね。それと同じです。クラスって、そうやって一人も落ちこぼれない、みんなの意見を大事にする、そういうふうにしていくものなんです。人数が多ければしゃべらなくてすむ子がいます。埋もれてしまう子がいるんです。そういうふうにならないように私たちは頑張りましたが、真逆です。そこは押し付けられないでほしいと思いました。それから、この統廃合は玉野市全体の大切な問題なのに、たかが教育委員会20人くらいの人たちによってそれが全部決まってしまうのか。なんと乱暴な。納得できない、そういうふうにしたので意見を言わせていただきました。このように統廃合を進めていくと、今もそうですけど、こんな玉野市には住めない、若い人は出ていき、子どもは今でさえ少ないのに、玉野市を出ていくのは目に見えています。近くに学校がないのですから。小学校の子どもって本当に大変なんです、歩くのも。重いランドセルを背負って、それを見守る地域の人もないんです。先が見えていて悲しくなります。そうすると玉野市の人口は減り、消滅してしまいます。そんなことを願っているのかと思ってしまいます。私宇野の時に市長さんに言いましたよね。何か玉野市にもっと人数を呼ぶようなそういう施策はないのかと。一生懸命頭を絞って考えてほしいと。市民の人が色々なことを考えて、小さな盛り上がりではあるけれども、宇野地区なんか人も呼ぼうと頑張っています。いろんなことを考えてほしいんです。それから山田・後閑・八浜・大崎は陳情書を出しました。すばらしいことだと思います。すごい努力だと思います。でも、玉・玉原・日比・二日比は出ていません。4校を一緒にするなんてあまりにも乱暴なことをするのに、陳情書が出ていません。それは賛成としては多いわけではないんです。知らないんです、みなさん。その地区の人たちに限るわけではないんですけど、核家族が多く、働くお父さん、お母さん、シングルの方もおられます。そんな人たちはその情報をきちんと見ていないんです。知らないからその段階になってびっくりして面喰らうんです。それはみんなに知らせたということにはなりません。日比中を小学校にするなんて、とても乱暴だと思うんです。場所も校舎も通学路もですし、小学生に合うようにはできていません。道路を2倍くらいに広げて歩道をきちんと整備してそんなことできるんですか。それから、危ない階段、ころげおちそうな階段をどうするんですか。いろんな心配事がつきません。それなのに4校を一緒にして日比中という案には広く反対します。そして、日比小学校はたかだか5年前くらいに新築したばかりです。玉小学校もまだ新しいです。そういう新しい学校も捨てて、プールもない、サイズも合わない、トイレも小学生には使えそうにない、そんな日比中に場所を移して教育をちゃんと行えるとは思えません。いろいろ無くなるということも含めて、もう少ししっかり考えてもらいたいと思いました。

参加者 12 : 5年前私は小学校のPTA会長でした。当時の前市長さんが、玉野市の会長さんを春と冬に集める会議で、当時はぼかんとするような、将来的には人数が減るから、地図で学校が存続されないというような話をワーワーいわれて、とてもびっくりした話が最初に来ていました。その時すでにこの計画が形があって、それにとって流れに乗ってるんだなと思ってんですが、この中のどなたかのお話で、検証はしていただけるんですか、この言葉とっても大事だと思います。私の主人が適正規模・適正配置の検討委員会のお役をいただいております。聞きに行かせていただいたときに、一生懸命、統廃合される側の学校になるわけですけど、うちだけでなく他のところでもその後子どもたちを検証していただけるんですか、と熱い思いで訴えておりました。人数がそっち側の人が少ないわけですから悲しい空気だったなというのと、そこにおられた校長先生の立場の先生が一括で、検証は必要ありませんと、現校長先生がそんなことをおっしゃるのだととても悲しかったのですが、必要ではないからしませんというコメントに誰もしーんとした状態で、補足コメントで教育委員会のどなたかが言われぬのか

と思ってたのですが、悲しい様子の主人のコメントが今でも胸にあるのですが、私の主人が言ったことに対してではなく、玉野市の教育に関わる人は子どもたちの今後が不安である、子どもたちだけではなく不安な状態の親の中にいる子どもっていうのはとても、子どもだけじゃないですね、不安が不安を作って、悲しいなという状態になるのをたくさん見えています。いい方向にいけばいい方向になると思いますが、いい方向をどうやったらみんなで作れるのかなという不安や不満だけではなくて、どうしたら安心が得られるのかなというのを求めたいだけなんですけど、今日もそれを求めにみなさんこられて、不満の爆発をしているわけではなくて、みんなが寄り添って手を携えて子供を育てたい。子どものことを熱心に思ってくださっている方がたくさんいます。その先頭にいらっしゃるのは玉野市の市長さんだと思っているのですが、どうかいい方向にいかないかな、それからエピソードがあるのですが、私は地域の学校のボランティアに行っていて、冬くらいにボランティアの集まりがありました。将来胸上と一緒になるということで、胸上のボランティアの取りまとめの方が検討のために来てくれていました。まず言われたことは、鉾立のボランティアはおばさま方が多かったですけど、こんなに出席されてるんですか、すごいですねという言葉にびっくりしました。要は参加する方が多いと。こういう集まりをしたときにとても出席率が悪くて困ってるんですとおっしゃってました。そうですか、じゃあ今後どうなるんでしょうねと。将来的にどうかという話にもありましたけど、もう統廃合するのが決まっているのか、この方が来られたのが早いのかなと思ったのですが、芋ほりのボランティアがあったのですが、胸上のお子さんたちも鉾立に来られてました。練習だったんですかね。そういうのは将来的に向けてボランティアであったり子どもたちが協働でいろいろできるということで考慮されてたのじゃないかと思いましたがちょっと早いのではないかと。合意をされているのであればどうぞぞうぞうという形ができると思うのですが、えっという感じが少しあったものですから、とまどう形になっていたのが、声が届いていなかったのかスタートラインなのか、どういうペースなのかとちょっと不安はありました。ちょっとうろろしましたが、人がまとまるように検討していただけたらありがたいなと思います。

参加者 13：この回に何度か足を運ばせていただいて、いつも同じ答えでもやもやしたまま帰ってたのですが、すべてが曖昧で、何をもって合意形成をされたのかって、その判断も何をもってしたらいいのかわからないのですが、何をもってしたらいいかわからないのに、合意形成できてます、できました、だから次に進めますと言われても、ただ少人数の参加者だけが何も文句を言わなかったら合意形成されたと考えるのか、住民投票してみんなが賛成反対と票を分けたらこうなるのか。何も決定的なことがなく、多様な価値観、思考力、判断力、表現力だとか言われますけども、今後のデータとなる人数だけに限らないとは思いますが、その表現力はこの人数だったらこれだけのものができてますよ、思考力はこれだけのものができていますよ、判断力はこうですよ、何かもとなるものが何もいまま主観的なものでこうなると思います、ああなと思います、何もデータがないです。データが第一というわけではなくて、何かを元にこうするほうが子どもたちのためになるんですよということが何をもって考えていいのかわからない。何回足を運んでもわかりません。基にするものは何かがあるからこそこの人数はこうがいいんですよ、という姿勢なんですよと言われてたならなるほどと思えるところもあるかもしれません。でも何もいまま。それも統廃合してどういう結果になるかわかりませんが、こうしたらこんな学校になりました、表現力はこうになりました、それが出ないと検証すらできないじゃないですか。する前とした後で何がどう変わったのか、みんなが納得できることを示していただかないと、それが本当に子どもたちのためだったのか、ということはわからないじゃないですか。今いる教育委員会のメンバーが変わることもあるかと思えます。その人の一人一人の考えも違うと思うんです。それを前に決まったことだからこう進めていくんですよ、合意形成がなされていなくても、説明会をしたらもう合意形成されて、お願いしますと先に進めていきますとそういうふうなことをしていくのですか。教育委員会の方は地域から代表として出られた方ではないですよ。そういう人たちによって何も根拠のない

ことを先に進めようとするのか、まったく意味がわかりません。何をもちってその判断をするというのか教えていただきたいと思います。

事務局：合意形成の部分ですが、先ほど言われた学校再編を住民投票のようなもので決めるようなものではないと思っています。明確な合意形成ができたという判断基準をどのようにこちらが把握するかというのは今の段階ではどうするかというのわかりません。これから話し合いや協議をしていくものになりますので、その協議の中でおおむね地域の方、保護者の方が学校再編の必要性についてご理解していただいて、これであれば仕方がない、仕方がないという言い方が正しいかはわかりませんが、そういった形でご理解がえられたなと感じたところで次の段階に進めるとしております。それが数字の何%以上だったらとかというのは今の段階でお示しできませんけど、先ほど言われた住民投票のような形でやっていくようなことではないというのは思っております。

参加者 13：おおむねというのはどれくらいなんですか。今答えられないとか、はっきりしたものを出してもらいたい。

事務局：100%全員がというのはない思っていますので、7割8割くらいではないかと考えております。

事務局：検証の部分ですが、検証というか、こちらとしては適正規模・適正配置の後、統廃合された各校の子どもたちが、実際に大きな環境の変化の中、子どもたちはどういう状況でどのように学校を過ごしているかというところは、きちっと実態把握をする必要があると考えています。たとえば困っていること、不安なこと、満足な点、良かった点、そういったところもしっかり確認しながら、もし困っている点であったり、あまり統廃合したことで成果でない課題があれば、それは課題としてしっかりと把握して今度は課題解決に向けて対応していく、そのための確認、検証というのが必要と考えております。その方法についてはいろいろあると思います。たとえばアンケートであったり子どもたちの教育相談であったり聞き取りであったり、いろいろな方法で各区学校の児童生徒の状況、実態をしっかり把握しながら、子どもたちにとってより良い学校を進めていきたいと考えています。それから、何度も説明で言っている、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力、じゃあこれをどのように練るのか、数値はどうかというと、今申し上げている力というのは、数値とか目に見えるようなものではない、非認知能力というものになります。じゃあこれはどのように見ていくかということ、子どもたちが直面する様々な場面で解決できるとか、力が発揮できるとか、そういう中で身につけているというふうに見ることになるかと思えます。将来的に大人になった時にそういった力が身につくところを目標に、

参加者 13：後追い調査をされるんですか。成長に合わせてこの子がこんなふうになってと調査をされるんですか。その場限りの答弁じゃないですか。

事務局：少なくとも学校教育の中では、そういった力が身につくような、

参加者 13：身についたかどうかを判断するのはどこでつけるんですか。

事務局：それは日々の生活の中でこの子が今よりも、そういったことが出来ているとか、

参加者 13：今より将来をだれが見るんですか、一人の先生が見るんですか。

事務局：それは子どもたちに関わる、学校であれば教職員であるし、たとえば保護者の方に様子を聞いたり、日々の中で子どもたちの成長をしっかり見ていくと、

参加者 13：今の規模では成長はできないんですか。

事務局：小規模校だから出来ないと言っているわけではなく、

参加者 13：でも、子どもたちの未来のためってことはそういうことじゃないですか。小規模校では出来ていないから適正規模にしてくださいねって言っているんでしょう。

事務局：小規模校が出来ていないとか、そういうことではなく、可能性や選択肢ということで、

参加者 13：先生の目が必要なら加配すればいいじゃないですか。何億もバス代出さなくても。

事務局：人員については可能な限り支援をしていきます。

参加者 14：今から 5 年ほど前から今日にかけての 5 年間、生徒、児童がどれだけ今言われたようなことで成長が出来たのか、それを検証してきたのですか。僕は最初に素案が出てきたときにこれはとりあえず数あわせをしますと、これから新しくやっていけないから、仕方ないからやるんじゃないかと、そういうふうな当たり前の論理でこれをしていくのだというふうにしかなかったです。たとえば、答申は 2 km だけど 3 km だと、何で 3 km にしたんですか。と言ったときに、最近の子どもは運動が出来ていないと。だから 3 km 歩かせたらいいじゃないかと。そんな乱暴なことを教育委員会の中で話し合いがなされていて、それを言葉として出されたわけですよ。大勢の中でよく言われたなど。それに対して今度は 2 km になったからそれでいいじゃないかと。そういうふうな物言いをされているように聞こえるんです。だけど、そうではないことがよくわかりました。それは子どもたちの発達段階というのをよく考えてください。高校生くらいになったら市外の学校へ行って、それはそれでいいんです。だけど、小さい子は自分の住んでいる生活空間が、つまり自分が見えているところが生活する場、学校というところを中心にしながらコミュニティを作って生活しているから親も安心するし、子どもも安心するし人間的に成長が出来るんです。そうやってやってきたことを残念だけど否定するようなことを言われている。これからの世の中のためにはこういう力が無いとだめなんだ。じゃあ今まで生きてきた昭和から平成とみてきたその子どもたちはだめなんですか。しっかり生きていっているじゃないですか。ましてや、たとえば、こんな玉野市には住みたくないからということで出て行かれる方が当然出てきます。もっと住みやすい岡山市であるとか、あるいは他県にまで出て行く方が加速度的に増えるのではないですかということを前に申し上げたんです。だけど、それに対してなんの検証もなくまた同じようなことを提案されている。だから話が積み上がっていない。話が深くなっていないです。浅いままでずっと来てるじゃないですか。言っていることのやりとりが、キャッチボールの球がもっと厳しくなるのかと思ったらそうじゃなかった。発展を一つもしていない。先ほど学テの話がされました。学テが、成績が、玉野市が、県が、最下位である。最下位であるということに対してどんなふうな取り組みをしてきているか、少しずつでもいいから向上しているんだ、目には見えないけどこういう取り組みをしているんですよ。だけど、今のままではそれをさらに発展させることが出来ないから統廃合していかないといけないんだ。とか言われたら、なるほどなって言えるんだけど、なんで最下位で沈んだままなんですか。浮上はしているのですか。学力が低い子が多いからですか。だから低いんですか。先生の教え方が悪いからですか。だから低いんですか。どういうふうにお考えですか。僕なりの考えはありますが、まずそちらから話をしてください。それから、せっかく市長さんが来られてるんだから、玉野市の人口が今減っていている、出生数が減った、そういう状況に対してどういうくさびを打っていき、減少を止めようとするんだ、あるいは各地域から玉野市に移住して来られる方をさらに増やして行くのか、どんなふうな方針をもっておられるのか、僕は八浜の人間だから、八浜がもう少し発展できればいいないつも思っているわけですよ。できるだけ人口が減らないように、子どもたちの数が減らないように、賑やかな八浜であってほしいと思っているんですよ。こないだ市議会だよりを読んでから、現職の先生はこの統廃合に対しておおむね賛成だと、校長会ではそれをやってくれと言っている。だけど退職した人間は反対する人ばかりじゃないかと。何で反対すると思いますか。僕が生まれ育ったふるさとだからです。自分の故郷だからです。だから学校がなくなることに反対をせざるをえんじゃないですか。こんなことを言ったら失礼ですが、第二日比小学校が、もう存続が難しいんだと言われたときに、「そうなんですか、なら仕方ないよな」僕が日比にいて日比がふるさとだったらもっと考え方が違うかもしれません。それが郷土愛です。子どもたちはその郷土愛というのを地域の方が学校を中心にしてみんな育てていかなければいけないんです。高校生になって郷土愛を育てようと思ってもそれはもう手遅れです。もっとグローバルに考えていかないといけない。そういう立場に立たなければいけないんです。今の大学生が海

外に出て行って留学しようという率は少なくなりました。勇気がないからです。勇気が無いのは教育が悪かったからでしょうね、きっと。こじんまりとまとまってきた。言いたかったことは、学力は成績が最下位なのはちゃんと検証されていますか。それから、文科省の指導要領に書いてあるようなことをだらだらと上の方で言ったわけです。そりゃ響かない。そんなことは昔からやっているんだ。生きる力を付けさそう。人権を守ってやらなければいけないんだ。教員が。みんな一生懸命やってこられた。それにも関わらずまた同じことを言う。話が変わるけど、3億円かかるんですよ、と言う話を玉野市民みんなに教えてみてください。絶対そんなのやめとけとなります。なぜスクールバスの運転に3億円かけないといけないのですか。聞きますよ、3億円は教育費ですか。キャベツをどこからどこへ運ばないといけない。これが必要経費なんです。だけど子どもたちをa地点からb地点まで運ぶというのに3億円かけるというのは無駄なんです。その無駄なことがどれだけ我々にひびくように説明をしてくださってるのですか。子どもたちが生活をする上で自分が見えている狭い範囲だろうけど、発達段階に合わせた地域で一生懸命勉強し、遊びというふうなことをさせてやればいいんです。それ以外の教育は何があるんですか。よくわからないことがいっぱいあります。大規模校でないといけないとか、中規模校でないといけないとか、やっぱりそれが残ってくるじゃないですか。そんなうそじゃだめじゃないですか。そうかと思っていたら、インクルーシブ教育というのをどこかに書いてましたね。教育委員会の言葉に、え、そうなのかと思いました。それから、統合したら不登校の数が増えるかもしれないお話をちょっとされてましたよね。じゃあそれをどういうふうにかバーするか。玉野市の不登校の数が今までの数よりかは減ってきているのか、一生懸命努力したから、荘内小で一生懸命やってきて、他の学校と比べて少ないんですか、検証はされてるんですか。みなさんに言ってあげてくださいよ。こういうふうにして先生方が手厚くやっているから、今さっき言われたけど、効果が出てるんだということ。検証できないとかどうとか言われてたけど、具体的な数字を示そうとやってきた話じゃないですか。いかがですか。

事務局：まず、本市の学力向上、結果についてです。毎年、学力・学習状況調査を行って、各学校分析をしています。点数だけではなくて、どの問題が出来ていないのか、どの程度出来ていないのか、どの力が足りないのか、それぞれの教科で各学校分析をしています。その分析をしたうえで、読み取る力が弱いのであれば、読み取る力を身につけるために、国語・算数・社会、それぞれの教科で授業をしていくかを各学校でそれぞれ分析、改善案を出して取り組んでいます。これについてはなぜ低いのかと聞かれたとしても、なかなかこういう理由で低いですというふうな明確なものはございません。こちら分析し、しっかり検証しております。ただそれぞれに課題があってというところで、課題は何なのかという、授業なのか、家庭学習なのか、そういったところを各学校で取り組んでいるところです。それがなかなか結果として、数値として出にくい部分がありますが、ただ、それぞれの学校先生方も、子どもたちもしっかりと学力向上に向けて一生懸命、本市の小中学校で取り組んでいるところです。これはもう少し長い目でみていただいて、いましっかり頑張っているその取り組みが来年少しでも成果として出ること、こちらとしては期待を込めてそれぞれやっているところですので、そこはご理解いただきたいと思っております。繰り返しになりますが、それぞれの学校、先生方、子どもたち、しっかり取り組んでいるところです。

市長：人口減少に対応するためにどうしているかということですが、大きく分けて少子化対策と、移住・定住というのを力をいれてやっています。少子化対策についてはなかなか成果がすぐには出にくいものですが、結婚支援から、安心して子育てできるような環境、さらにはこの教育環境を整備することも非常に大事だと思っております。今回の学校の再編が少子化対策につながるかはわかりませんが、教育環境を良くしていくというのは大事だと思っておりますので、そこは今教育委員会の方でいろいろ検討して進めているというところであります。今回いろいろ皆様方から貴重なご意見をいただいておりますし、そういったこともしっかり受け止めて、

今後計画作りやその後の各地域での協議に臨んでいく必要があるかと思っています。いずれにしても住民の皆様との合意形成がきちっと出来ないときに強引に進めていくということはありませんし、そういうスタンスで臨んでいきたいと思っています。もう一つ人口減少の移住定住ですけど、以前から移住コンシェルジュということで昨年度からは地域興し協力隊ということで対応しているということですし、観光とかそういった面でもプロモーションをもう少し強化してやっていこうということで、玉野は住みよいい場所だと思っていますので、そこをもっとアピールしていくことにも力を入れていきます。先ほどからもずっと議論をお聞きして思ったのですが、検討委員会というものを2年弱くらい立ち上げて、そこで一昨年の年末に検討委員会のほうから答申をいただいたんですね。そこでの結果を受けて今計画を作っているということでありまして、検討会議の答申がどうだったかということ、ここを私がどうこう言うことはもうできないのですが、その答申の中で言われたのが、小学校はクラス替えが出来る2クラス以上、中学校は専門科目の先生が配置できる3クラス以上が望ましいという答申をいただいて、その答申ののっとなって、今教育委員会でそれぞれの地域に当てはめて作っている。ということなんですね。今日の議論を聞いていると、小規模がいいんだ、なぜそれがいけないんだという話が多かったと思うんですけど、そこは本来検討会議の中でもっと詰めて議論すべきだったと思うんですね。検討会議の中で具体的な、この地域ではこうしますみたいなのは残念ながらされなかったと、その基準を示されて実際に当てはめを教育委員会がしている。かなり重たい判断になってくると思うんですけど、それを今やっているということで、検討会議でそういう基準が出た段階ではそこまでの反響はなかったと思うんですけど、検討会議の中である程度議論はあったと思うんですけど、そんなに大きな反対とかはなかったと思うのですが、

参加者 14 : それは知らなかっただけじゃないですか。

参加者 5 : 僕は検討委員会入ってましたけど、反対派が3人だけだったじゃないですか。市長はご存じないかもしれないですけど、15人中、八浜と東児山田、3人くらいなんです。そんな中で我々が声を上げても、僕は2クラス3クラスなんて一言も言ってないですからね。それを言ってもかき消されるし、複式が本当にいいかどうか議論しましょうと言っても、委員長が、複式解消のために立ち上がってるんだから議論する必要は無いと全然話をしてくれないし、なんなら検討委員会からやり直せばいいんです。

市長 : ただ検討会議というのはそこでいったんオーソライズされているものですからやりなおすことはできません。

参加者 5 : やりたいことをやればいいんです。僕は全部の説明会伺った際にやりたいという声が多かったのは、ご存じだと思いますけど日比地区じゃないですか。その日比地区でこんな声がありました。子どもだけで手を挙げて、私は友達がたくさんできるからそのほうがいい。統廃合したい。賛成だ。そのお母さんは、その前反対意見を言われてた方に対して、子どもが怖がっています。反対意見をあんなに言われたら子どもが怖がってます。その後子どもが、私は小学校2年生です、私は大勢の友達が出来の方がいいから統廃合してほしい、そのあとすぐ後ろにいた市議会議員の方と仲良くしゃべってたんですよ。どういことですかね。僕は日比出身なんで友達にこう言われました。反対意見なんだけど、ある市議会議員の人が反対意見を抑え込んでるんだと。それで総務文教委員会を傍聴にいきました。福本議員は、せっかく我々が、僕が反対意見を抑えたのに、なんで修正案を1年先延ばしたんですか。がっかりですと言っていました。なんで市議会議員がそんなことをするんですか。反対意見があるならそれを市政に届けるのが市議会議員の仕事じゃないんですか。何か僕はおかしいことを感じています。それを利用しているんじゃないかと。じゃあもうどうぞ、日比からやってみたらいいんじゃないですか。日比と二日比、玉、玉原、やってみたらいいんじゃないですか。それも反対の声はあると思います。日比・二日比は、日比・二日比とならいいと言う声は多いと思うんですよ。玉・玉原も玉・玉原ならいいと言う方は多いと思うんですよ。でも、それをやると先々また統廃合しないといけなくなるからもう一緒にやっしまおうということと

教育長はおっしゃってましたよ。それって丁寧なやり方なんですかね。もうこんなことになっているんだから、この適正規模化が案であろうが計画になろうが絶対うまくいかないと僕は思います。じゃあ、住民投票はしないと書いてましたが、住民投票してみたら蓋を開けたら玉野市民は絶対反対の声の方が多いですよ。教育長も昨日の説明会の最後に、もっとなんで早くしないんだと言う声もある、なんで1年遅らせたんだという声もあるという、その地域をやればいいんじゃないですか。反対が多い地域は除外していくべきで、本来なら十年前にやらなければならないことを、今10年遅れてるから一気にやるというのは間違いだと昨日お話しさせていただきましたよね。それを一気にやるのは間違いだと言ってたじゃないですか。それをオフィシャルじゃないにしろ、そう考えてなかったらここまで何年も何十時間も、教育委員会の方も一生懸命されてきたことが水の泡になっても仕方ないことを教育委員会が行ってきたのだから、そこはこうなってしまうことに失敗してしまってるんですよ。失敗したことにごめんなさいと誤るのが普通じゃないんですか、教育者だったら。子どもにもそう教えているはずですよ。失敗してしまっただけから今回スタートラインという位置づけで今回修正案につけてきたんですよ。何の話にもスタートラインという話なんてなかったし、ここまで対立構造になってなかったら絶対にうまくいかないと思います。だからまずは、日比地区が賛成が多いなら日比地区でやってみて、それでいい例が出来れば、あんなふうによればうまく統廃合ができるんだというのを、僕とかは廃校になった以外我々何も知らないじゃないですか。だからみなさん不安なんですよ。本当にやりたい地域をやってみて、こういう課題を得たら次につなげる、丁寧にやっていくというのはそういうことじゃないですか。みなさんそれを望んでると思うんですよ。何もビジョンが見えないから。さっきいろんな方がおっしゃいましたけど、同じことを何回も繰り返し聞かされています。それで納得できないし、これから小学校単位とかPTA単位、コミュニティ単位で話をさせていただきますと言われても、また同じ話されても全く意味が無いですし、そこで違う話ができるならここでも出来るはずなんですよ。それをなせしないんですか。説明会も2回だけだし、そもそも本当にこれが教育委員会の方針なんだとしたら、我々をこんなに巻き込まないで欲しいんですよ。方針として教育委員会がこういうものを出します、でもPTA単位、コミュニティ単位で話を進めてくれればよかったのに、修正案で、みなさんの意見を聞いてくださって変えてくださったのはいいんですけど、答申からも書かれていますし、答申を出した検討委員会を選んだ、検討委員会は、私は八浜地区代表としていっています。でもその地区の代表として行っているのに、代表の意見を持ち込んでくださるとは教育委員会は言っていないです。だから個人の意見が反映されてるんです。たしか次長もおっしゃってました。いつかの説明会で、代表だからその地区の意見を吸い上げてもってきてくださいねという提案で個人に委ねています。そんな適当なやりかたで、こういうことが起きるのはわかりきってるんですよ。八浜の説明会でもある保育園の保護者の方が、検討委員会からやり直してください、誰が検討委員会を決めたんですかと言われてましたよ。その通りだと思います。本当にもう一度考えてみてください。

市長：ご意見としてはもちろん承りますけども、先ほども申し上げたように検討会議はいったんしめて答申を出したと、それを元に今改めて今計画をいろいろと作って議論していると、当然議論が出し尽くされたわけではないでしょうし、改めて具体的な計画にしたときにはそれぞれのエリアからまたいろんなご意見もでるでしょうし、そこは丁寧に進めて行くということは教育委員会も言っていますし、それぞれの地域で協議して行くところは申し上げているとおりとなります。いったん計画という形にして行かないと話の材料にもならないということもありますし、教育委員会としてはこういう方針で行きますというものを示した上でそれを材料に協議していくということになるかと思います。

参加者15：子どもたち一人一人が幸せになって欲しいと保護者が一番願っているし、教職員も地域の人も願っていると思います。教育環境が良くなることはもちろんみんな望んでいることです。教育環境をよくするというその話し

合いに私たちは今参加しているわけですが、参加していない人が玉野市民たくさんいます。だから本当にみんなの知恵を集めて相談しないといい計画にはならないと思います。学校は統合してしまったら、統廃合してしまったら元にもどりません。あとで検証して、だめだったって言っても、もう統廃合されたままです。だからそうならないように、きちんと計画をする前にみんなで話し合っしてほしいと思っています。